

議案第 1 号

職員の特殊勤務手当に関する規則の一部改正について

令和元年 5 月 23 日 提出 岩手県人事委員会 委員長 熊谷 隆 司

1 趣 旨

- (1) 防疫等作業手当の対象となる家畜の伝染性疾病について、所要の改正をしようとするものである。
- (2) 皇位継承に伴い、刑事作業手当について、所要の改正をしようとするものである。

2 規則案の内容

- (1) 防疫等作業手当の対象となる家畜の伝染性疾病の種類に、「豚コレラ」を加えること。（第 4 条関係）
- (2) 刑事作業手当の警衛対象者について、所要の改正をすること。（第13条第 7 項第15号関係）

3 施行期日等（附則関係）

公布の日から施行すること。ただし、第 4 条の改正規定は、平成31年 3 月 14 日から適用する。

職員の特殊勤務手当に関する規則の一部を改正する規則をここに公布する。

令和 年 月 日

岩手県人事委員会
委員長 熊 谷 隆 司

岩手県人事委員会規則第 号

職員の特殊勤務手当に関する規則の一部を改正する規則

職員の特殊勤務手当に関する規則（昭和31年岩手県人事委員会規則第65号）の一部を次のように改正する。

改正前	改正後
<p>（家畜の伝染性疾病の種類）</p> <p>第4条 条例第4条第2項に規定する人事委員会の定めるものとは、次に掲げるものとする。</p> <p>（1）～（8） [略]</p> <p><u>（9）</u> [略]</p> <p><u>（10）</u> [略]</p> <p><u>（11）</u> [略]</p> <p><u>（12）</u> [略]</p> <p><u>（13）</u> [略]</p> <p><u>（14）</u> [略]</p> <p><u>（15）</u> [略]</p> <p><u>（16）</u> [略]</p> <p>（刑事作業手当）</p> <p>第13条 [略]</p> <p>2～6 [略]</p> <p>7 条例第10条の2第2項に規定する手当の額は、次の各号に掲げる作業の区分に応じ、当該各号に定める額とする。</p> <p>（1）～（14） [略]</p> <p>（15） 条例第10条の2第1項第15号の作業</p> <p>ア 天皇又は皇后、皇太子<u>若しくは皇太子妃</u>の警衛の作業 作業1日につき1,150円（同一の日に第7項第1号の作業に従事した場合にあっては、590円）</p> <p>イ [略]</p> <p>（16） [略]</p> <p>8・9 [略]</p>	<p>（家畜の伝染性疾病の種類）</p> <p>第4条 条例第4条第2項に規定する人事委員会の定めるものとは、次に掲げるものとする。</p> <p>（1）～（8） [略]</p> <p><u>（9） 豚コレラ</u></p> <p><u>（10）</u> [略]</p> <p><u>（11）</u> [略]</p> <p><u>（12）</u> [略]</p> <p><u>（13）</u> [略]</p> <p><u>（14）</u> [略]</p> <p><u>（15）</u> [略]</p> <p><u>（16）</u> [略]</p> <p><u>（17）</u> [略]</p> <p>（刑事作業手当）</p> <p>第13条 [略]</p> <p>2～6 [略]</p> <p>7 条例第10条の2第2項に規定する手当の額は、次の各号に掲げる作業の区分に応じ、当該各号に定める額とする。</p> <p>（1）～（14） [略]</p> <p>（15） 条例第10条の2第1項第15号の作業</p> <p>ア 天皇又は皇后、<u>上皇、上皇后、皇太子、皇太子妃、皇嗣若しくは皇嗣妃</u>の警衛の作業 作業1日につき1,150円（同一の日に第7項第1号の作業に従事した場合にあっては、590円）</p> <p>イ [略]</p> <p>（16） [略]</p> <p>8・9 [略]</p>
備考 改正部分は、下線の部分である。	

附 則

この規則は、公布の日から施行し、この規則による改正後の職員の特殊勤務手当に関する規則第4条の規定は、平成31年3月14日から適用する。

職員の特殊勤務手当（防疫等作業手当及び刑事作業手当）に関する規則の一部改正について

1 改正の趣旨

- (1) 人事院規則 9－30（特殊勤務手当）の一部改正により、防疫等作業手当の支給対象が拡大（「その他人事院の定める家畜伝染病」として豚コレラが指定）されたことから、本県の防疫等作業手当の支給対象について、所要の改正をしようとするもの。
- (2) 皇位継承に伴い、人事院規則 9－30（特殊勤務手当）が改正されたことから、刑事作業手当（警衛作業）について所要の改正をしようとするもの。

2 特殊勤務手当の概要

(1) 趣旨等

職員の勤務が著しく危険、不快、不健康又は困難な勤務その他の著しく特殊な勤務と認められるものに従事する職員に対して、勤務の特殊性に応じて支給するもの。

条例において、勤務の特殊性に応じて、現在38種類の手当が規定されている。

(2) 支給額

手当ごとの支給額については、条例で月額、日額又は時間等を単位に上限額の範囲を示し、具体の金額については多くが人事委員会規則に委任する形で規定されている。

3 防疫等作業手当

(1) 概要（一般職の職員の特殊勤務手当に関する条例）

ア 支給要件〔第4条第1項〕

職員が、感染症等が発生し、若しくは発生するおそれがある場合又は犬による危害のおそれがある場合において、次に掲げる作業又は業務に従事したときに、支給する。

- ① 感染症等の患者若しくは感染症等の疑いのある患者の救護若しくは感染症等の病原体に汚染された物件若しくは汚染の危険がある物件の処理作業又は感染症等の病原体を有する家畜若しくは感染症等の病原体を有する疑いのある家畜に対する防疫作業
- ② 狂犬病予防法第6条第2項の規定に基づく犬の捕獲又は同条第9項の規定に基づく犬の処分の作業
- ③ 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第53条の14第1項の規定に基づく在宅結核患者の家庭を訪問して行う必要な指導
- ④ 動物の愛護及び管理に関する条例第14条第2項の規定に基づく犬の捕獲、同条第7項の規定に基づく犬の処分又は同条例第15条第1項の規定に基づく犬の薬殺の作業

感染症等とは〔第4条第2項〕

- 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第6条第1項に規定する感染症（四類感染症及び五類感染症を除く。）
- 狂犬病予防法第2条第1項及び第2項に規定する狂犬病
- 家畜伝染病予防法第2条第1項に規定する家畜伝染病その他の家畜の伝染性疾病（寄生虫病を含む。）で人事委員会の定めるもの※
- 検疫法第2条に規定する検疫感染症

※人事委員会で定めるもの（職員の特殊勤務手当に関する規則第4条）

口蹄疫、流行性脳炎、狂犬病、炭疽、出血性敗血症、ブルセラ病、結核病、鼻疽、高病原性鳥インフルエンザ、低病原性鳥インフルエンザ、破傷風、レプトスピラ症、サルモネラ症、野兔病、トキソプラズマ病、豚丹毒（16種類）

※ 下線は国と同じ。

イ 支給額〔第4条第3項〕

手当額は、作業又は勤務1日につき380円の範囲内で人事委員会の定める額とする。

作業対象	日 額〔規則第5条〕
条例第4条第1項第1号の作業及び同項第3号の業務 (感染症等の患者の救護、感染症等の病原体に汚染された物件の処理、 感染症等 の病原体を有する家畜の防疫作業 、在宅結核患者の家庭を訪問して行う指導)	作業又は勤務1日につき 290円
条例第4条第1項第2号の作業及び同項第4号の業務 (狂犬病予防法に基づく犬の捕獲又は処分) 動物の愛護及び管理に関する条例に基づく犬の捕獲、処分又は薬殺	作業1日につき380円

(2) 国の改正状況

ア 改正規則

人事院規則9-30(特殊勤務手当)の一部を改正する人事院規則

イ 改正内容

農林水産省に所属する職員が行う防疫作業の支給対象範囲に、「人事院の定める家畜伝染病」を追加すること。

(防疫等作業手当)
第十二条 防疫等作業手当は、次に掲げる場合に支給する。
一・二 [略]
三 農林水産省に所属する職員が家畜伝染病予防法(昭和二十六年法律第百六十六号)第二条に定める家畜伝染病(口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザ、低病原性鳥インフルエンザ、 <u>その他人事院の定める家畜伝染病(※)</u>)に限る。)のまん延を防止するために行う家畜のと殺、家畜の死体の焼却若しくは埋却又は畜舎等の消毒の作業に従事したとき。
四 [略]
※ 現時点で人事院が個別に定めている家畜伝染病は、 豚コレラ のみ。

ウ 施行日

平成31年3月14日施行(平成30年12月25日から適用)

(3) 任命権者の内申

昨年度から国内で発生している豚コレラの防疫等作業のため、国では職員を派遣し、今般豚コレラを特殊勤務手当の支給対象として個別指定したところであり、本県においても職員を派遣し、防疫作業に従事した実績があり、国との均衡を考慮し、豚コレラを支給対象とすることが適当であること。

(4) 東北各県の状況

	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県
根拠規定	規則	規則	条例	規則	条例	規則
豚コレラ追加の有無	○	○	検討中	検討中	○	○
改正後の根拠規定	規則	規則	検討中	検討中	検討中 (規則へ委任)	規則

(5) 改正案

次のとおり改正する。

根拠規定	改正前	改正後
第4条 【防疫等作業手当】	条例第4条第2項に規定する人事委員会の定めるものとは、次に掲げるものとする。	条例第4条第2項に規定する人事委員会の定めるものとは、次に掲げるものとする。
	(1) 口蹄疫	(1) 口蹄疫
	(2) 流行性脳炎	(2) 流行性脳炎
	(3) 狂犬病	(3) 狂犬病
	(4) 炭疽	(4) 炭疽
	(5) 出血性敗血症	(5) 出血性敗血症
	(6) ブルセラ病	(6) ブルセラ病
	(7) 結核病	(7) 結核病
	(8) 鼻疽	(8) 鼻疽
	(9) 高病原性鳥インフルエンザ	(9) 豚コレラ
	(10) 低病原性鳥インフルエンザ	(10) 高病原性鳥インフルエンザ
	(11) 破傷風	(11) 低病原性鳥インフルエンザ
	(12) レプトスピラ症	(12) 破傷風
	(13) サルモネラ症	(13) レプトスピラ症
	(14) 野兔病	(14) サルモネラ症
	(15) トキソプラズマ病	(15) 野兔病
	(16) 豚丹毒	(16) トキソプラズマ病
		(17) 豚丹毒

家畜伝染病
(家畜伝染病予防法第2条第1項)その他の家畜の伝染性疾病
(家畜伝染病予防法第4条第1項)

【理由】

昨年から豚コレラによる大規模な被害が発生しているところであるが、今般、国では規則改正を行い、新たに豚コレラを支給対象となる家畜伝染病として個別指定したところである。本県においては、豚コレラの防疫等作業のため、農林水産省等からの派遣要請による職員派遣が行われており、任命権者から豚コレラを特殊勤務手当の支給対象とするよう要請があることから、国及び東北各県との均衡を考慮し、豚コレラを支給対象となる家畜伝染病に追加することが適当であること。

4 刑事作業手当（警衛作業）

（１） 概要（一般職の職員の特殊勤務手当に関する条例）

ア 支給要件〔第10条の2第1項〕

警察職員が、次に掲げる作業に従事したときに、支給する。

①～⑭ 〔略〕

⑮ 警衛又は警護の作業で人事委員会の定めるもの

⑯ 〔略〕

イ 支給額〔第10条の2第2項〕

手当額は、1の作業1日又は1回につき5,200円の範囲内で人事委員会の定める額。

作業対象	日 額〔規則第13条第7項第15号〕
ア 天皇又は皇后、皇太子若しくは皇太子妃の警衛の作業	1日につき1,150円 (同一の日に第7項第1号(※1)の作業に従事した場合にあっては、590円)
イ アに掲げる作業以外の作業	1日につき640円 (同一の日に第7項第1号の作業に従事した場合にあっては、80円。ただし、人事委員会が別に定める皇族(※2)の警衛の作業に従事した場合にあっては、これらの額に510円を加算した額)

※1 第7項第1号の作業…私服員が主として従事する犯罪予防若しくは捜査又は被疑者逮捕の作業

※2 人事委員会が別に定める皇族…文仁親王又は悠仁親王

（２） 国の改正状況

ア 改正規則

人事院規則9-30（特殊勤務手当）の一部を改正する人事院規則

イ 改正内容

「天皇の退位等に関する皇室典範特例法」（平成29年法律第63号）の施行等に伴い、所要の改正を行うこと。

（護衛等手当）

第二十八条の三 護衛等手当は、次に掲げる場合に支給する。

一 警察庁皇宮警察本部に所属する皇宮護衛官のうち人事院の定める職員が次に掲げる業務に従事したとき。

（１） 天皇又は皇后、上皇、上皇后、皇太子、皇太子妃、皇嗣若しくは皇嗣妃の護衛

（２）～（４） 〔略〕

ウ 施行日

平成31年5月1日施行（平成31年4月26日公布）

（３） 任命権者の内申

国との均衡を考慮し、本県においても国と同様に措置することが必要であること。

（４） 東北各県の状況

	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県
刑事作業 手当	○	○	○	○	○	○

※人事院規則改正等の国の動向を勘案し、改正予定であること。

(5) 改正案

次のとおり改正する。

根拠規定	改正前	改正後
第13条第7項 第15号 【刑事作業手 当(警衛作業)】	ア 天皇又は皇后、皇太子若しくは皇太子妃の警衛の作業 作業1日につき1,150円（同一の日に第7項第1号の作業に従事した場合にあっては、590円）	ア 天皇又は皇后、 <u>上皇、上皇后</u> 、皇太子、 <u>皇太子妃、皇嗣若しくは皇嗣妃</u> の警衛の作業 作業1日につき1,150円（同一の日に第7項第1号の作業に従事した場合にあっては、590円）
	イ アに掲げる作業以外の作業 作業1日につき640円（同一の日に第7項第1号の作業に従事した場合にあっては、80円。ただし、 <u>人事委員会が別に定める皇族</u> の警衛の作業に従事した場合にあっては、これらの額に510円を加算した額）	規則改正なし <u>（運用通知改正）</u>

【理由】

- ① 国と同様の改正であり、上皇等の警衛作業に従事することは、天皇等の警衛作業に従事することと、**その職務の特殊性（著しい精神的緊張及び心労を伴うもの）は変わるものではないこと**から、同様の取扱いとすることが適当であること。
- ② 東北各県においても同様の改正を行う予定であること。

【参考：運用通知改正案】

根拠条例	改正前	改正後
第13条（刑事作業手当）関係	13 規則第13条第7項第15号イの「人事委員会が別に定める皇族」とは、 <u>文仁親王又は悠仁親王</u> とする。	13 規則第13条第7項第15号イの「人事委員会が別に定める皇族」とは、悠仁親王とする。

5 施行期日

公布日施行とすること。ただし、防疫作業手当については、平成31年3月14日から適用すること。